

型取引適正化に向けた取組の進捗状況

2020年12月10日

一般社団法人 日本自動車部品工業会

〔優先事項〕

- 1.溜まった不要型を減らす
 - 2.上流（顧客）からの打切り通知を下流（仕入先）に流す
 - 3.上流の打切り判断/通知を増やす
 - 4.必要な保管コストをSCで分担する
- ・部工会は1～3について、調達・生産部会の下部組織の「旧型補給部品WG」が、会員企業に、グッドプラクティスや雛形の提示を通して、各社の取り組みを支援してきた。
 - ・更に、型協議会5項目に対応する為、スコープを拡大し、新たに「型取引適正化WG」としてリニューアルして、型取引適正化の具体的な取り組みや改善に繋げる活動を継続していく。
 - ・本日は、5項目の内、「型廃棄の促進と保管費」について、会員企業でのグッドプラクティスの紹介と直面する課題の共有をする。
 - ・部工会としては、課題/困り事に対する会員企業の支援のために、Tier1社内課題については、グッドプラクティスの提示、改善要請を、顧客との関係課題については、業界スルーでの共通理解や解決フローの構築を進めていきたい、と考えている。

取組事例とポイント

<型廃棄の推進（概要）>

		システム整備済（先行企業） のベストプラクティス	システム未整備（取組み途上企業） のグッドプラクティス
取 組 み	<u>1.溜まった不要型削減</u> 不要型 一斉点検 <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 5px;"> Tier1 Tier2 </div>	A ・システムによるデータ抽出と仕入先への 廃棄確認依頼	B ・仕入先に不動産型調査を行い、社内分析および 顧客への廃棄可否確認依頼
	<u>2.上流から下流への通知</u> 打切り通知 処理 <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 5px;"> Tier1 OEM </div>	C ・システムによる打切り通知 （廃棄型特定も含めて）	D ・帳票/ハンド作業での打切り通知
	<u>3.上流の通知を増やす</u> 打切り判断/ 通知の拡大 <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 5px;"> OEM Tier1 </div>	E ・各社個別に、各顧客にルール短縮や個別製品の終息申請 ・旧型経過15年節目での顧客との協議（準備中）	
課 題 困 り 事	社内	・社内での情報/処置停滞 ・供給年限ルール合致品番の抽出、顧 客への申請漏れ	・旧型問題へのリソース不足 ・システム化のリソース捻出難
	仕入先	・部品品番と型の紐付管理難 ・旧型経過15年節目での協議の具体化	
	顧客	・打切り通知のない領域（エンジン周り部品等） ・商用車、2輪での、少量&長期での「量産」継続 ・農建機での供給年限ルールの未確立 ・旧型経過15年節目での廃棄前提での協議をSCでどう進めるか ・打切り通知等の情報提供の一元化（部署単位⇒会社単位の情報提供）	

取組事例とポイント

<型廃棄の推進（具体的事例）>

		システム整備済（先行企業） のベストプラクティス	システム未整備（取組み途上企業） のグッドプラクティス
取 組 み	<p><u>1.溜まった不要型削減</u></p> <p>不要型 一斉点検</p> <p>Tier1 Tier2</p>	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> 発注実績などに基づき不要と思われる物の確認・棚卸を実施し、取引先80社に対して、2,000個の型の廃却を促した。 仕入先が型・治具を保有し、管理してる総品番数の内、約18%が不要品番（自動車メーカーの打切り確認&廃図済み）であることを点検し、廃棄を促した。 	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> 型廃却要請が仕入先からあった場合（下から上）社内、顧客情報を確認のうえ仕入先に廃却指示 半年毎の棚卸において、廃棄申請。量製品の取引を終了した取引先と協議の上、補給品としても不要であることを確認できた型につき廃却を実施。 量産設定でありながら流動のないものは、受注企業からの申告を受付け、協議を継続的に実施。
	<p><u>2.上流から下流への通知</u></p> <p>打切り通知 処理</p> <p>Tier1 OEM</p>	<p>C</p> <ul style="list-style-type: none"> 毎年破棄できる金型（部品）データを取引先に送付し、廃却可能な金型を廃却。 	<p>D</p> <ul style="list-style-type: none"> 過去10年 購入実績より供給義務なし品番を特定～仕入先へ通知（上から下）
	<p><u>3.上流の通知を増やす</u></p> <p>打切り判断/ 通知の拡大</p> <p>OEM Tier1</p>	<p>E</p> <ul style="list-style-type: none"> 顧客に、既に15年経過製品リストを作成し、廃棄に向けての依頼準備中。 	

取組事例とポイント

<型保管費の負担（具体的事例）>

<p>取組み</p> <p>OEM Tier1 Tier2</p>	<ul style="list-style-type: none">・ルールを設定し部品代と別支払・仕入先要請に基づき、個別対応 <p>《具体事例》</p> <ul style="list-style-type: none">・過去6ヶ月生産未で保管必要な金型は保管費用を支払。・7年間未発注対象品について、金型費用を支払い、取引先に保管。・取引先との廃却、保管費用の協議において、廃却費用は実費、保管費用は保管場所の坪単価や面積等を確認し、妥当性を検証しながら交渉を行っている。・保管費用は、要求してきた取引先に対して、型の廃棄・返却、保管費用に関する「目安」に基づき算出し100%支払い処理
<p>課題/困り事</p>	<ul style="list-style-type: none">・埋没コストのSCでの分担・負担すべき管理状況、範囲、水準等の相場観・保管費支払いの更なる拡大は、Tier1メーカーでのコスト負担が大きな課題であり、サプライチェーンで分担する必要がある。

今後の取組みの方向性

- ・型協議会報告書「5つの課題に対する基本原則」の取組み事項のベスパラ説明会などの活動を通じて、会員企業の具体的な取組みや改善に繋げていく。
- ・行政や関係団体と連携し、サプライチェーン全体の取組みとして、型取引の適正化の取組みを継続する